

主 題：希望をもって生きる 2

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章15－17節

イエス・キリストを信じている人の特徴をひとつ挙げるなら、それは「希望」です。I ペテロ1：3には「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。」とあります。同じ21節にも「あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。」とあり、「希望」こそ真のキリスト者の特徴なのです。それは、世的で聖書的でない偽りの「祝福」を捨て、状況に流されることを止めること、そして、キリストが誰であるのかを思い出し、彼に対して立てた忠誠心の誓いを思い出すことです。その結果、私たちは「希望」をもって人生を送ることができるのです。

今朝は神が私たちに与えてくださった「希望」について学びます。

A. 「希望」とは？

1. 一般的な意味での「希望」：辞書に拠ると、

・稀な、めずらしい、ごく少ない、うすい、かすか、という意味ですが、「希」にあとに「望」という補語を補うことで、「めったにないことをあつてほしいと願う」こととなります。

・「こうなればよい、なつてほしい」と願うこと、願望、期待、未来に対する良い見通し、です。

しかし、キリスト者の希望はこのような希望ではありません。

2. 聖書的「希望」とは：

・迫害において忍耐を与えるものです。I テサロニケ1：3「絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」と、それはキリストの来臨を待望しているからです。

・たましいに確信と励ましと保証を与えるものです。嵐の中にも揺るぐことなく耐えられるのは、ヘブル6：18、19に「それは、変えることのできない二つの事がらによって、一神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません。一前に置かれている望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。」とある通りです。

☆クリスチャンに与えられている希望

それは神からいただいた約束です。

1) キリストの再臨

I テサロニケ4：16、17「主は、号令と、御使いのかしらとの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下つて来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」。キリストが帰つて来られるのです。テトス2：13にも「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。」とあります。

2) よみがえり

I テサロニケ4：16、17、使徒23：6「しかし、パウロは、彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見て取つて、議会の中でこう叫んだ。『兄弟たち。私はパリサイ人であり、パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。』」

3) 信者の携挙

I テサロニケ4：16、17、5：8「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶつて、慎み深くしていきましょう。」

4) 栄化

私たちは完全な者へと変えられるのです。I テサロニケ5：8、ガラテヤ5：5「私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。」

## 5) 約束の成就

聖書の約束はすべて成就します。マタイ5：18「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。」。使徒26：6, 7「そして今、神が私たちの先祖に約束されたものを待ち望んでいることで、私は裁判を受けているのです。私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでおります。王よ。私は、この希望のためにユダヤ人から訴えられているのです。」

## 6) 永遠のいのち

テトス1：2「それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束してくださった永遠のいのちの望みに基づくことです。」、また、同じ3：7には「それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人となるためです。」

神の下さる希望は、一般的にいう淡い希望や、めったにないことをあつてほしいと願うこととは違うのです。パウロは言います。I ペテロ3：15b「…あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」と。「あなたがたのうちにある希望」、それは神によって救われた者に例外なく与えられている「希望」です。II テサロニケ2：16に「どうか、私たちの主イエス・キリストであり、私たちの父なる神である方、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、」とある通りです。

☆では、なぜこのような希望を主が与えてくださるのでしょう？

なぜ、このような希望をもって生きてゆく者とされたのでしょうか？

それは「証」のためです。クリスチャンの希望こそ世に対する大きな証です。「説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」とパウロは言います。なぜなら、時代とともに「希望」が失われてきたからです。

☆なぜ、希望を失ったキリスト者が多いのでしょうか？なぜ、希望を失うのでしょうか？

それは、神以外のものを信頼するからです。そこには喜び、感謝がなくなります。I テモテ6：17にはこのように書かれています。「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらにように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」と。

15節を見ましょう。二つのことを教えられます。

### 1) 「キリストを主として崇めなさい」

彼を崇める、崇拜する、尊ぶという意味で、これが「希望」を持つ基です。彼がだれであるのかを覚え、すべてを支配される唯一の主権者、至高の存在として、尊び崇拜することです。

### 2) 「心の中で」

確かにその通りと確信するのです。「心」が大切なわけは、それが行動に生き方に影響を与えるからです。

⇒この結果、主への信頼が生まれるのです。そして、これがクリスチャン生活のカギなのです。

☆主への信頼を貫いた旧約の人物を見てみましょう。

## アブラハム

ローマ4：18「彼は彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、『あなたの子孫はこのようになる。』と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。」

75歳のアブラム（元の名前）に神は約束を与えられました。創世記12：1-3「その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」、しかし、10年間その約束がかなえられることはありませんでした。そこで、妻のサライは自分の女奴隷ハガルを与えました。創世記16：1-3「アブラムの妻サライは、彼に子どもを産まなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。：2 サライはアブラムに言った。「ご存じのように、主は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにおはいりください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。：3 アブラムの妻サライは、アブラムがカナン土地に住んでから十年後に、彼女の女奴隷のエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。」、その子イシュマエルが生まれたときアブラムは86

歳、その後13年間も子どもは与えられなかったのです。創世記17：1-8「アブラムが九十九歳になったとき主はアブラムに現われ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびたしくふやそう。」3 アブラムは、ひれ伏した。神は彼に告げて仰せられた。4 「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。5 あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。6 わたしは、あなたの子孫をおびたしくふやし、あなたを幾つかの国民とする。あなたから、王たちが出て来よう。7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンを、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」、彼が99歳になったとき、新しい名アブラハムが与えられました。それは「多くの国民の父」という意味です。アブラハムは当惑しました。もう自分は年老いている、新たに子どもをつくることなど不可能なこと、妻のサラ（このときからサラ）も子どもを宿すことは不可能だと。だから、創世記17：17-19「アブラハムはひれ伏し、そして笑ったが、心の中で言った。「百歳の者に子どもが生まれようか。サラにしても、九十歳の女が子を産むことができようか。」18 そして、アブラハムは神に申し上げた。「どうかイシュマエルが、あなたの御前で生きながらえますように。」

19 すると神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼とわたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。」。

サラの失敗を見ましょう。人間的な判断で歩むなら希望を失うということです。サラ（75歳）がハガルを与えたことは、この当時の習慣でもあったからです。不妊の女は自分のしもべを夫に妻として与え、その生まれてくる子は自分の子として見なされたのです。しかしながら、サラのしたことは神の前に正しくなかったのです。彼女は神の約束を信じて待つことを選択しないで、自分の考え、判断で最善と思えることをしたのです。彼女は人間的な判断で歩むことによって「希望を失った」のです。創世記18：12「それでサラは心の中で笑ってこう言った。『老いぼれてしまったこの私に、何の楽しみがあろう。それに主人も年寄りで。』」と、サラには神のことば、約束がただの気休めとしか受け取ることができませんでした。サラは89歳でした。

私たちも、人間的な判断、考えで歩むとき、希望を失うことがあります。ローマ4：17を見ましょう。「このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。」と、これが私たちが希望を置く根拠なのです。神はいのちを与える神です。死人にいのちを与えることができる、何も存在しないところから物を誕生させることができるのです。

アブラハムは子どもをもうけることなど不可能であると、その事実、現実をしっかりと見つめました。しかし、それで終わったわけではありません。ローマ4：19-21「アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだは死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。：20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。」、彼の「信仰は弱りませんでした」とあります。弱るとは、「動揺する、ぐらつく」という意味ですが、アブラハムは4：17の真理を見つめていたからそのようなならなかったのです。確かに死んでいる肉体けれども、神はそれを用いてみこころを行なうことができるのです。信仰は現実を見つめることから逃避しません。かえってその困難の背後におられる神とその約束を見つめるのです。彼は神を信じたのです。神には不可能なことは絶対はない！神はこの老いた私を通して、神のみこころを為される、間違いはない！と。そして、このような信仰者であるアブラハムの信仰を、「信仰がますます強くなって、」、神はますます強められたのです。

ヘブル11：11には「信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。」と書かれています。アブラハムは神に信頼すること、期待することを学びました。彼が若かったら自分で何とかできると考えて、このレッスンと学ぶことはきっとなかったでしょう。神はアブラハムの信仰が成長するために、これらのことをされたのです。子どもをすぐには与えなかったこと、自分には子どもをつくることは絶対にできない、ということを確認するまで神は待たれたのです。それが、このレッスンを学ぶ最善の時、状況であることをご存じであったからです。アブラハムが自分の信じる神がどれほど偉大なお方であるのかをもっと知るために、このようなレッスンの場を備えてくださったのです。私たちにも同様です。

もうひとつの例を見ましょう。

#### ヒゼキヤ

ユダの王ヒゼキヤはアッシリヤによって攻められます。アッシリヤの王セナケリブはユダのすべての城壁のある町々を攻めて、これらを占領しました。彼はエルサレムのヒゼキヤのところへ軍隊を派遣します。ラブ・シャケはアッシリヤの王のメッセージを伝えます。II 列王記 18:28-30 「こうして、ラブ・シャケはつつ立って、ユダのことばで大声に呼ばわって、語って言った。「大王、アッシリヤの王のことばを聞け。29 王はこう言われる。ヒゼキヤにごまかされるな。あれはおまえたちを私の手から救い出すことはできない。30 ヒゼキヤが、主は必ずわれわれを救い出してくださる、この町は決してアッシリヤの王の手に渡されることはない、と言って、おまえたちに主を信頼させようとするが、そうはさせない。」と。ヒゼキヤ王は祈ります。II 列王記 19:14-19 「ヒゼキヤは、使者の手からその手紙を受け取り、それを読み、主の宮に上って行って、それを主の前に広げた。15 ヒゼキヤは主の前で祈って言った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。16 主よ。御耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセナケリブのことばを聞いてください。17 主よ。アッシリヤの王たちが、国々と、その国土とを廃墟としたのは事実です。18 彼らはその神々を火に投げ込みました。それらは神ではなく、人の手の細工、木や石にすぎなかったのです。滅ぼすことができたのです。19 私たちの神、主よ。どうか今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、主よ、あなただけが神であることを知りましょう。」と。

神はアッシリヤを滅ぼされました。

#### B. 勧め 15-17節

私たちキリスト者が救われた目的はこの偉大な神の救いのみわざを伝えるためです。救われた者はすばらしい神を伝えて行く務めがあります。主を心から恐れ敬いながら生きるときに、私たちの内なる「希望」が強められます。それが大きな証となるだけでなく、証の機会ともなるのです。16節に「…弁明しなさい」とありますが、そのとき人々は「どうして?」と思い、質問するでしょう。私たちが「証」の機会に注意すべきことを見てゆきましょう。

#### ☆証に関する注意事項 16節

- 「優しく」＝話をする相手に対する態度です。感情的になったり横柄な態度で語るとき、反発を買うことになります。へりくだり、礼儀正しく、思いやりの心を持つことです。箴言 15:1にはこのように教えられています。「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。」
- 「慎み恐れて」＝これは神と人への態度です。神から与えられた命令を実践できることの喜びと感謝とともに、神への恐れをもってすることです。その証の時間を神が喜んでくださることを願い求めながら、また同時に人に対して尊敬と愛の思いをもって語るのです。
- 「正しい良心」＝態度、ことば、行ないに最善の注意を払って生活することです。正しいことば、行ないが神によって力が与えられ、すばらしい証となるからです。主の前に正しいことを行ない続けなさいと教えます。

17節に「もし、神のみこころなら」とありますが、私たちが困難の中にも神に目を向け、忠実に歩み続けるとき、主とともに歩んでいるときに、さまざまな問題や苦しみが訪れます。その理由は、

- 1) 罪に対する懲らしめ
- 2) 信仰の成長のための訓練

苦しみや問題、困難に出会うとき、あなたは次のことを自らに問い掛けなければなりません。「私は主に対して忠実に歩んでいるか?」と。もしそうなら、その苦しみは神があなたを愛するがゆえに与えてくださったすばらしいプレゼント、祝福です。善を行ない続けなさい、そのことに疲れてはならない、主の証がなされるのだからとペテロは教えます。

#### 結論＝

神は「希望の神」です。この神により、神の喜び、平安、そして希望が与えられるのです。みことばを見ましょう。

ローマ 15:13 「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。」

I ペテロ 1 : 2 1 「あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。」

ピリピ 4 : 7 「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

ヨハネ 1 5 : 1 1 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

どんなときでも主を見上げ、忠実に歩むことです。そのとき私たちの心は神の希望に満たされるのです。